

# Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

## 為替週間展望 = ドル円は108円台を中心とするもみ合いか

[3月15日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		3月8日～3月12日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	108.29	109.23(9)	108.27(8)	108.87	+0.56
ユーロ・ドル	1.1915	1.1990(11)	1.1836(9)	1.1950	+0.0035
=====					
国内株・金利/米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	29,717.83	+853.51	日本10年債利回り	0.110	+0.014
ダウ平均株価	32,485.59	+989.29	米10年債利回り	1.537	-0.029
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 15日 日本1月機械受注高  
英3月ライトムーブ住宅価格  
中国2月鉱工業生産指数、中国2月小売売上高  
カナダ1月製造業出荷  
米3月NY連銀製造業景気指数  
米1月対米証券投資
- 16日 豪第4四半期住宅価格指数  
日本1月鉱工業生産指数確報値  
独3月ZEW景況感指数  
米2月小売売上高、米2月輸入価格指数  
米2月鉱工業生産・設備稼働率
- 17日 NZ第4四半期経常収支  
日本2月貿易収支  
ユーロ圏2月消費者物価指数  
米2月住宅着工・許可件数  
カナダ2月消費者物価指数  
米連邦公開市場委員会(FOMC、16～17日)政策金利発表  
パウエルFRB議長記者会見
- 18日 NZ第4四半期国内総生産(GDP)  
豪2月雇用統計  
スイス2月生産者・輸入価格  
ユーロ圏1月貿易収支  
英中銀(BOE)政策金利、英金融政策委員会(MPC)議事録  
米新規失業保険申請件数、米3月フィラデルフィア連銀景況指数  
米2月景気先行指数
- 19日 日本2月消費者物価指数  
豪2月小売売上高  
日銀金融政策決定会合(18～19日)金融政策発表  
黒田日銀総裁記者会見  
独2月生産者物価指数  
カナダ1月小売売上高、カナダ2月鉱工業製品価格

【前回のレビュー】今年に入ってからは米長期金利とドル円の連動性が高まっており、米長期金利の上昇期待はドル円には支援材料となる。株式や為替市場は米長期金利の動きに振り回されているものの、ドル円は107円台では底堅く、堅調な推移を続けることとした。

#### 【米長期金利の上昇が一服】

米長期金利の動向が依然として株式や為替市場に大きな影響を与えている。そうした中、10日に発表された2月の米消費者物価指数（CPI）は前月比、前年比ともに市場予想と同水準と落ち着いた水準となり、食品とエネルギーを除いたコア指数は前月比、前年比ともに市場予想を下回った。これを受けて、インフレの加速による米長期金利上昇への警戒感が後退した。

米10年債利回りは、8日に一時1.61%台まで上昇、引けでも1.59%台となるなど高水準を維持した。翌日以降に利回りは低下傾向を見せ、10日には米CPIが落ち着いた結果となったことで1.51%台まで低下した。11日も1.57%台と落ち着きを見せている。こうした中、ドル円は9日に109.23円付近まで上昇した後には下落傾向となり、その後は108円台前半から後半で推移している。

3月16～17日に米連邦公開市場委員会（FOMC）が開催される。今回は金融政策に大きな変更はないとみられる。声明やパウエル議長の記者会見で、米長期金利の上昇をどの程度けん制してくるかが最大のポイントとなりそうだ。

パウエル議長は4日の発言で米債券市場について「秩序のない市場環境になれば問題視するだろう」と述べたものの、米金利急上昇に対する具体的な対応策には言及しなかった。今回のFOMC後の記者会見で、市場を落ち着かせるために何らかの言及があれば、米長期金利の上昇は落ち着きを見せて、株高に傾きやすくなる。その場合はリスク選好のドル売り円売りに傾きやすくなる。ただ、しばらくは静観する姿勢を示すようなら、米国株やドル円は米経済指標の動きに左右されやすい展開になるとみられる。

ドル円は2月23日の安値104.92から3月9日の高値109.23まで4.3円超もの上昇を見せた。テクニカル面でもやや過熱感が高まっている。米長期金利が落ち着きを見せており、ドル円は108円台を中心とする高値圏でのみ合いになるとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、107.50～109.50円。

18～19日に日銀金融政策決定会合が開催される。日銀はこの会合後に金融政策を点検した結果を発表する予定となっている。物価目標や「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の枠組みはそのまま残るとみられる。焦点となるのは、イールドカーブ・コントロール（YCC）や上場投資信託（ETF）等の資産買い入れに関してとなる。

ETFの買い入れに関しては、市場の状況に応じて柔軟性を持たせるように調整されるとの見方が広がっている。長期金利の変動許容幅の拡大に動くとの観測も一部にあるが、黒田日銀総裁が5日に長期金利の変動許容幅について「拡大する必要があるとは考えていない」と発言しており、可能性はかなり低いとみられる。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、15日に日本1月機械受注高、米3月NY連銀製造業景気指数、米1月対米証券投資、16日に日本1月鉱工業生産指数確報値、米2月小売売上高、米2月輸入価格指数、米2月鉱工業生産・設備稼働率、17日に日本2月貿易収支、米2月住宅着工・許可件数、米連邦公開市場委員会（FOMC、16～17日）政策金利発表、パウエルFRB議長記者会見、18日に米新規失業保険申請件数、米3月フィラデルフィア連銀景況指数、米2月景気先行指数、19日に日本2月消費者物価指数、日銀金融政策決定会合（18～19日）金融政策発表、黒田日銀総裁記者会見などがある。

#### 【ユーロドルは戻り一服か】

11日の欧州中央銀行（ECB）理事会では、パンデミック緊急購入プログラム（PEPP）を利用して、国債買い入れペースを加速させる方針を表明した。米長期金利の上昇の影響で、ユーロ圏でもドイツやフランスの長期金利が上昇基調で推移しており、これを抑えるために行動を起こす。

ユーロドルは米長期金利上昇を背景としたドル買いの動きから下値を探る展開が続いた。9日には一時1.1836前後まで下落している。米長期金利の上昇一服もあって、その後、ユーロドルは反転して上昇基調で推移している。これまでの下げの反動か

ら戻り歩調が見込まれるが、1. 20ドル超では売り圧力が高まり、戻りは限定的とみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは1. 1750～1. 2100ドル

日米以外の今後の経済指標やイベントは、15日に英3月ライトムーブ住宅価格、中国2月鉱工業生産指数、中国2月小売売上高、カナダ1月製造業出荷、16日に豪第4四半期住宅価格指数、独3月ZEW景況感指数、17日にNZ第4四半期経常収支、ユーロ圏2月消費者物価指数、カナダ2月消費者物価指数、18日にNZ第4四半期国内総生産（GDP）、豪2月雇用統計、スイス2月生産者・輸入価格、ユーロ圏1月貿易収支、英中銀（BOE）政策金利、英金融政策委員会（MPC）議事録、19日に豪2月小売売上高、独2月生産者物価指数、カナダ1月小売売上高、カナダ2月鉱工業製品価格などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。